



《会計・税務の知識》会社の生命保険プラン

はじめに

生命保険を加入する際には、ライフプランを
考えてから、必要保証額を決めて、その金額に沿
った形の保険プランに加入する方法論が主流にな
っています。会社にも同じように保険プランがあ
り、個人とは、また一味も二味も違ったものです。
小谷野公認会計士事務所では、各社のライフプラン
と社長さん個人のライフプランを良く分析した
上での相談を行ってきました。今回、モデルケー
スの一部をご紹介します。

1. 会社の保険プラン

極限まで簡単に分類すると、現状分析は下記の表
に分かれます。

当期純利益	黒字	赤字
モデルケース	①	②

ケース①：

前提条件・現状分析：

この会社は、業績も良く、売上也安定しています。
今まで、保険には何も入っていませんでした。
これからの展望も良好に推移しそう、と社長は判断
しています。会社には借入がまだ多額に残っており、
現金も潤沢です。

提案内容：

今後、借入を返済しつつ、業績も順調である事から、
当社には節税プランが最適です。

また、長期的な積立を少しずつはじめ、役員退職金
としての原資を貯めるプランを加えました。

直近のリスクヘッジとしては、掛捨ての死亡保障も
似合いますが、生きていても働けなくなるリスクの
高い三大疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞）の保障を
厚くしました。

弊社では、三大疾病の保障で会社の窮地を救った事
例もあります。

ケース②：

前提条件・現状分析：

この会社は、業績はあまり良くない状態ですが、会
計事務所との経営会議で、今後の営業展開やサービ
ス内容の変更で、改善が見込める事が判明しました。
借入もまだ残っており、会社での保険契約もいくつ
か加入していました。

提案内容：

しばらくの間、コスト削減で資金繰りを改善します。
保険料以外のコストは、極力節約している状態であ
ったので、一部の積立保険を解約するかどうかの判断
をして頂き、代わりに掛け捨ての保険でリスクヘッ
ジする事にしました。

当社においては、短中期的な資金繰り改善が急務で
あったため、保険料負担の多い積立プランは避けま
した。

2. 社長個人のライフプランは、特殊？

特に会社経営者だからといって、個人の保険プラ
ンに特別なものはありません。資産家が多い事から、
相続対策を行う事くらいです。

相続対策の場合は、相続人の洗出し、財産評価、被
相続人本人の思いまで、多角的な情報から、最適な
相続プランを先に打ち出します。

現状の資金と、財産種類とを分析して、納税資金の
対策を示し、どのように用立てるかを決めます。

プランした結果として、どんな保険商品が最適化を
見極める必要があります。中には、保険プランが不
要な場合や、思っていた以上に納税が必要でなかつ
たなどのケースもあります。

おわりに

小谷野公認会計士事務所では、最適な保険プランの
無料設計から、相続対策の相談まで、幅広く行っ
ております。ご入り用の際は、お気軽にお問合せく
ださい。 担当： 池田